

# 稲作だより

第 2 号  
育苗前期編

令和5年4月10日発行  
最上総合支庁農業技術普及課  
Tel 29-1329 (稲作担当)

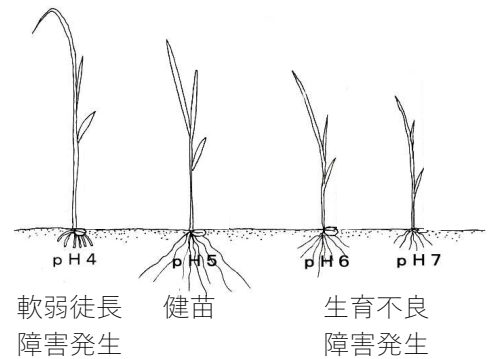
## 十分な浸種ときめ細かな温度管理を心がけましょう！

今年は気温が高い日が続いています

浸種・育苗時はきめ細やかな温度管理を行い、ばか苗病等の感染助長や高温障害（苗ヤケ）を防ぎましょう

### ◎床土の準備 ～培土 pH を確認！～

育苗培土の適正 pH は、やや酸性の 4.5~5.5  
自分で育苗培土を用意する場合は、必ず pH を確認してから使いましょう。



### ◎浸種 ～温度管理をしっかり！～

水温 10~15°C、積算水温 100~120°C が目安  
浸種初日の水温は 10°C以上 を確保しましょう。

水温が低いと発芽が不揃いになりやすく、  
水温が高いとばか苗病等の感染を助長します。  
水槽は日陰や屋内に設置し、温度計で温度を  
確認しながら適温を維持しましょう。

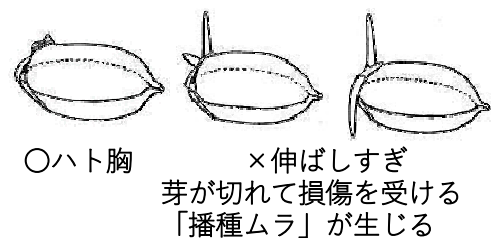
#### < 浸種時水温の影響 >

低温	適温	高温
10°C以下	10°C~15°C	15°C以上
出芽が不揃いになる	十分な吸水が可能	ばか苗病等の感染を助長

### ◎催芽 ～芽の状態をよく確認！～

催芽の基本は、水温 30~32°C、20 時間浸漬  
芽の不揃いや過度な伸長を防ぐためにも、ハト胸状態  
になっていることを確認しましょう。

※ ヒメノモチは発芽が早いので特に注意を！



### ◎播種 ～苗の種類と播種量を確認！～

播種時のかん水は十分に行いましょう。水分の不足は出芽不良や不揃いの原因となります。  
また、培土の代わりに育苗マットを使用する場合は、特に水分不足に注意が必要です。

#### < 苗の種類と一箱当たりの籾量の目安 >

苗の種類	乾燥籾重	催芽(ハト胸)籾重	箱数/10a	育苗日数	葉数
稚苗	150~180g	188~225g	25	<u>25日</u>	<u>2.2~2.5</u>
中苗	80~120g	100~150g	30	<u>35日</u>	<u>3.2~3.5</u>

## ◎育苗管理

育苗期のかん水には可能な限り水道水や井戸水を使用しましょう。  
高温になるとばか苗病等が発生しやすくなるため、注意しましょう。

時期		温度		管理のポイント
		昼間	夜間	
出芽期	加温出芽	30~32℃ 2日程度		・覆土から5~10mm出る状態まで出芽させます。
	無加温出芽	35℃以下 約1週間		・無加温では出芽が揃うように、保温資材を適切に活用しましょう。 ・【 <b>苗ヤケに注意!</b> 】ハウス・トンネル内とマルチ下に温度計を設置し、昼間は適切に換気を行いましょ。
緑化期（1.0葉期） 3日程度		25~30℃	15℃	・朝夕やくもりの日は遮光資材をはがして緑化を進めましょ。 ・晴天時はすぐにハウス内気温が上がるため、 <u>早めに換気を行いましょ。</u>
硬化期 （1.5葉期以降）		15~20℃	8℃以上	・ <u>かん水は午前中の早い時間にたっぷり</u> と行います。日中のかん水は、床土の温度を下げるため避けます。 ・田植え1週間前から育苗ハウスを開放し、徐々に外気にならしましょ。

### <プール育苗>

プール育苗は、1.5葉期に箱上まで入水し（カビ等の好気性病害の発生抑制）、ハウスを開放しましょ。プール状態を保てるよう、事前に均平や水漏れ対策等の準備を徹底しましょ。

## ◎苗の障害対策 ~育苗期間中の主な病害と対応~

地際部や根周辺のカビ、生育異常等が見られたら早めにご相談ください。

病名	症状(原因菌)	原因	対応
苗立枯病 (総称)	土の表面にクモの巣状の白いカビ(リゾプス菌)	出芽時の高温多湿、厚播き	高温、過湿を避け、日光に当てて殺菌する。
	地際部や根周辺にピンク色のカビ(フザリウム菌)	低温、pH5.5以上の床土、乾燥、過湿	低温を避け、土壌の湿度を適切に維持する。
	地際部に緑または白いカビ(トリコデルマ菌)	緑化期前後の低温、保水力が小さく、pHが低い培土	低温、乾燥を避ける。
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	第2葉身の真ん中から基部にかけて黄変または白化、伸長停止し、その後枯死する。	出芽後の高温・過湿	高温・過湿を避け、発病した苗は廃棄する。



リゾプス菌



フザリウム菌



トリコデルマ菌

※種子消毒に「タフブロック」「エコホープDJ」等を使用した場合、資材由来のカビ（タフブロック：黄色、エコホープDJ：濃い緑色等）がみられる場合がありますが、苗の生育に害はありません。

春季農作業事故防止運動強化期間 4月10日~6月10日